

☆都議選情報

☆拉致問題が国連人権委で議題に

☆連載コラム 吉原恒雄

第79号 2001年7月1日

(平成7年3月17日第三種郵便物認可)

月刊

民社

発行 民社協会

編集発行人 真鍋 貞樹
〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目20番9号
和田ビル4階
TEL (03) 3501-5111 毎月1回1日発行
購読料 年間 2,000円
(会員の購読料は会費の中に含む)

民社協会理事

伊藤郁男

さあ！ 参議院選挙の勝利へ

— 一風に期待する選挙は駄目です —

参議院選挙は投票日（7月29日）まであと1カ月に迫りました。この戦いで民社協会はすでに比例区選挙で3名（池口、藤原、柳沢—いずれも新人）と選挙区選挙で5名（埼玉・山根、千葉・今泉、岐阜・平田、兵庫・辻、岡山・石田）の候補者を推薦し、必勝を期して準備を続けてきました。

いよいよ戦いは最終段階に入りましたが、今回の戦いは民社協会にとってもこれまでの選挙とは大きな違いのある選挙となっています。その第一は、比例区が非拘束名簿式となり、実質的には旧全国区と同様の個人名選挙となったことです。政党に投票する比例区選挙は1983年の選挙から導入され、以後6回の選挙を経てきました。この方式ではどの支援組織がどの程度の票を獲得したのか判別できませんでしたが、今度ははっきりします。第二は比例区で当選した現職の寺崎昭久、足立良平の両氏が引退し、今泉昭氏が千葉選挙区で戦っていることです。今泉氏は現職といっても新人と同様の条件下にあるということです。また、選挙区で前民社協会理事長の吉田之久（奈良）が引退されました。そして埼玉・山根、兵庫・辻の両氏は新人として初挑戦です。

以上のような状況の変化の中での戦いではありますが、私ども民社党時代から培ってきた信念的な同志的結束をより発揮して、全推薦候補者の当選を勝ち取り、真の政治改革を実現しなければなりません。

4月末に発足した小泉内閣の異常とも言える人気が続いています。そして、森内閣以来吹いていた自民党への逆風が追い風変わったように言われています。

一転して民主党を含む野党の苦戦が伝えられています。確かにその一面のあることは否定しませんが、このブームによって、自民党が参議院の過半数を獲得できるかということ、それはNOです。参議院の定数は247議席、その過半数は124議席です。今の自民党は107議席ですから、17議席以上増やさなければ過半数に届きません。現に青木参議院幹事長は「どんなに善戦しても、過半数を取ることは絶対にありません」と本音を語っています。

また、小泉人気は森首相の評判があまりにも悪すぎたことの裏返しであり、いつかはしばみまます。しかも小泉首相の改革路線を苦々しく思って、反撃の時期を虎視眈々と狙っているのが、党内最大派閥の橋本派です。

小泉首相が声高に唱える改革も、まだ何一つ具体的になってはいませんし、言っていることが実現しなければ、その反動は大きなものとなるでしょう。

したがって、われわれは小泉人気を過度に恐れる必要はありません。もともとわれわれの伝統は信念に基づいてこつこつと実績を積み上げることでした。われわれは風を頼りに選挙したことはありません。かつて春日一幸先生は「票は待っていても来るものではない。こちらから歩いていかなければ取れるものではありません」「相手の口に入った票でも、その口に手を差し込んで引き出してくるような、信念と気迫がなければ勝てません」と言われました。この言葉を思い出しながら、あと1カ月、友愛連絡会の仲間とともに全力で頑張り抜き、21世紀初頭のこの選挙を勝利に導こうではありませんか。

第19回参議院選挙 立候補予定者 (平成13年6月18日現在 ○内の数字は定数)

比 例 区			埼玉③	千葉②	岐阜②	兵庫②	岡山①
							
池口修次(新)	藤原正司(新)	柳沢光美(新)	山根隆治(新)	今泉 昭(現)	平田健二(現)	辻 泰弘(新)	石田美栄(現)